



## 家づくりが育む建築への道のり | 従自然建築からSDGsへの発想

一級建築士事務所アトリエ4A代表 天野 彰

(第12回/全12回)

12回にわたり、あらゆる現場で働く建築士の知見にと思い、わが国の住まいのDNAを探り、学ぶことで新たな時代の建築が可能と、継続的建築士の技術講座と言えるのかの疑念を抱きながらわが建築人生を赤裸々に述べてきた。

### 建築のカタチ、住まいのカタチとは

司馬遼太郎氏は日本人を「思想を持たない思想」と言う。確かに政治にしろ、はたまた宗教に至るまで“一途に偏る”人を見かけることは少ない。一見無思想とも思えるが…それこそが「無思想の思想」で周りとのバランスを考え、許す限りの妥協点を探り静かにわが理想を求める。それはこのコロナ災禍に対しても役立つのかも知れない。

家づくりもバランスから始まり少々このこだわりを表わす。そのため個性のない流行りの家ともなる。そこに世界に類を見ない量産住宅のプレハブの最盛期を迎える。こうして個性のない生活、ひいては人生をも画一化しかねない“住まい”となる。

### 「和」のカタチ「とき」と「ば」そして「ハレ」と「ケ」

そんな“無思想”の住まいの奥深くには、「和」があり、海外から見ても、家づくりの設計をしても、まるでDNAのように「従自然」の想いがあり、そこに「とき」と「ば」があり、暮らしに「ハレ」と「ケ」の文化を醸し出す。

こうしてわが国の家には好み以上に、四季の「設え」と「格式」が生まれ、確たる住まいの“思想”となっている。しかし突如西欧

から流入した数々のカタチに翻弄され、現代の「無思想」の家となったと思われる。

### 風と水の従自然「傘の家」と「裸足の生活文化」

本来、「和」の思想とは多湿な気候の中で従自然の暮らしとなり、風通しと通気、すなわち「風」に頼り、湿気すなわち「水」の対策のまさに健康思想の家と言え、住む人と住まいの健康にも係わる。これが乾いた大陸の防御の「壁の家」に対して「傘の家」となる。

まさしく徒然草\*の「家の作りやうは夏を旨とすべし…」の自然志向、自然素材の家づくりで、都市においては「傘の家」は町家となる。その根底に「裸足の生活」があり、わが国固有の家のカタチとなり文化となっている。

### 改めてこれからの建築のカタチとは

この先、省資源、脱炭素さらには疫病までを含めた災害に備え、建築士は建て主の本質的な生活や好みを見出し具現化する姿勢が大切だと思う。便利な都市では「狭さ」は当然で、その中でいかに想いを適合させるか、「夫婦」「家族」さえも、個別に面談し、個々の本音を聴き出す。その想いを最大公約数にして設計。

これは企業や病院などの建築においても同じで、さらに持続可能なカタチを形成する。またこうした思慮に適応した教

育や法的行政支援をし、さらにCPDのきっかけともなる施工倫理を含めた社会の構築が重要となる。こうしてはじめて健康、省資源の地球環境に優しいSDGsの建物を見いだす。

### (おわりに)

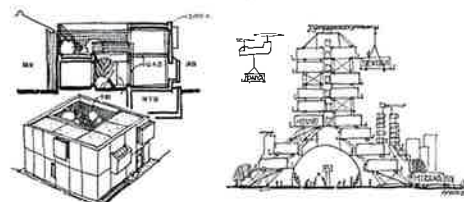
東京建築士会の梅津氏から当初24回にわたる講座の依頼であった。同居や「減築」・リフォームさらには家相・健康・若い・省エネなどお伝えしたいことも多く意欲もあったが、この長引くコロナ禍で気力が削がれ、12回の詰め込み講座となり、読み辛い誌面となったことをお詫びする。また別の機会でもぜひお伝えしたい。

最後に誌面をおかりして筆者が思う住まいのカタチを添付させていただく。

\*徒然草55段：わが国三大随筆の一つ。吉田兼好(法師)作とされている。日本の住まいや暮らしの原点を知るため古典を読み説く中で、わが国の偉らざる本音の生活や世相を的確に言い表している随筆と思う。まさしく何百年にもわたって人々が読み継いで来た日本人の生活の知恵と思想と思える。



「傘の家」「壁の家」イメージ (画:筆者)



現代町家「セルフ・ディフェンス・ハウス」(案・画:筆者) 都市において、内部は中庭式の無垢の家。外壁は硬い甲羅で囲まれ台風や水害にも防御する現代の「町家」内部は自然通気の木造住戸。

空中権の分譲集合住宅「フレーム・コロニー」(案・画:筆者) 都市部のフレームの権利を所有する、区分所有ならぬ空中権利の分譲住宅構想。各戸は個人の所有物件で、自由に移動し、他都市のフレームにセットもできる。住戸と構造・設備の分離することで、メンテナンスが容易となる。

自習型認定研修の設問 | 2021年11月号～2022年3月号を参照して、下記の設問にお答えください。

認定教材の設問への回答は、インターネットからお願いします。

#### 設問1

2021年11月号の「伝統建築の柔軟で持続的な“やわら”の“いなす技”とは何を指すか。

- 伝統建築は建物に応力を加えない工夫をし、「仕口」に隙間を空けて力が伝わらないよう造られている。
- 京都清水寺舞台の懸崖構造の木組みのように各仕口に無数の楔(ほぞ)を打ちガッチリ固め力をいなくす。
- 仕口の柄(ほぞ)と柄穴による木と木の継手“軋み”で揺れを柔軟に吸収し建物全体に応力を分散させる。

#### 設問2

2021年12月号の「修復工事から学んだ組算」とはいかなる方法か。

- 修復の現場では解体除去し、新たに組み上げる二重の手間を組むことで正確な工事費を出しやすいく。
- 修復現場の内部構造の仕組みと手間を検証、部材の数量と手間をみる。積算は「組算」であると発見する。
- 修復現場では、作業ごとの材料を組み上げた式をつくり、そこに数値を入力するだけで、正確な積算ができる。

#### 設問3

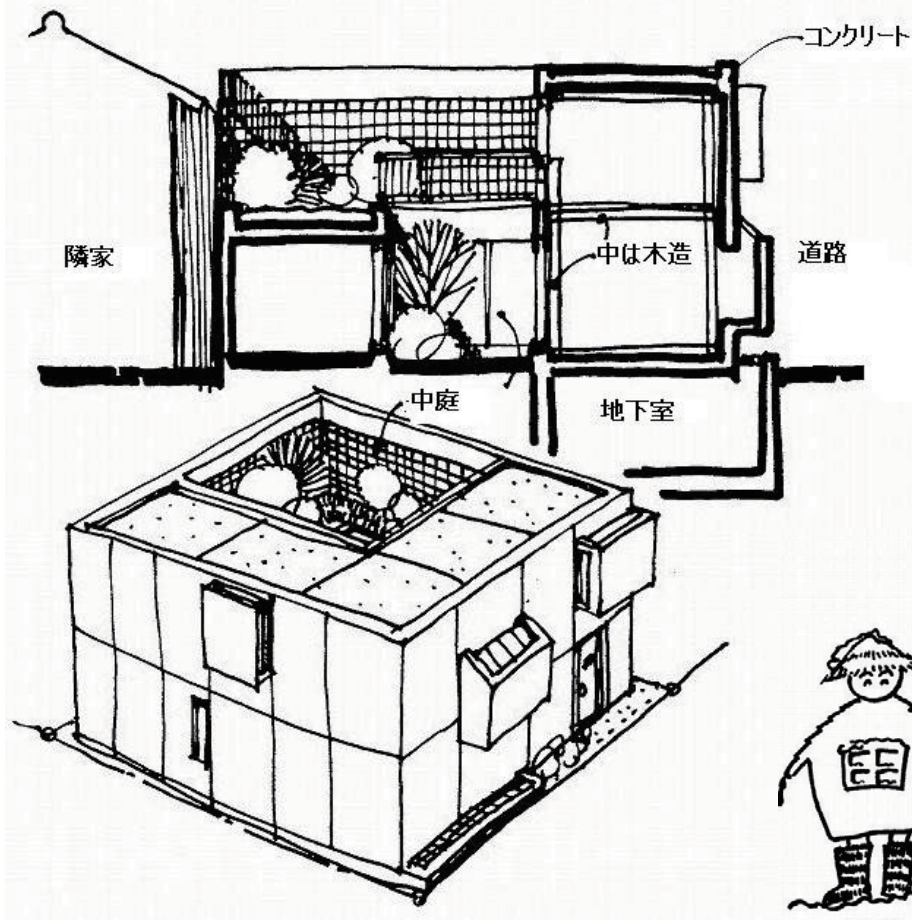
2022年1月号～3月号における家づくりが万博、工場さらに病院建築に生かされたことは。

- 家づくりでの建て主の多くの意見を取り入れる柔軟な能力が複雑な建物の設計に生かされた。
- 家づくりで夫婦、家族の本音の意向と動きを学び、それに寄り添ったプランニングが生かされた。
- 家づくりは法だけ守れば比較的自由に設計できるので、楽しいプランニングや豊かな空間ができた。

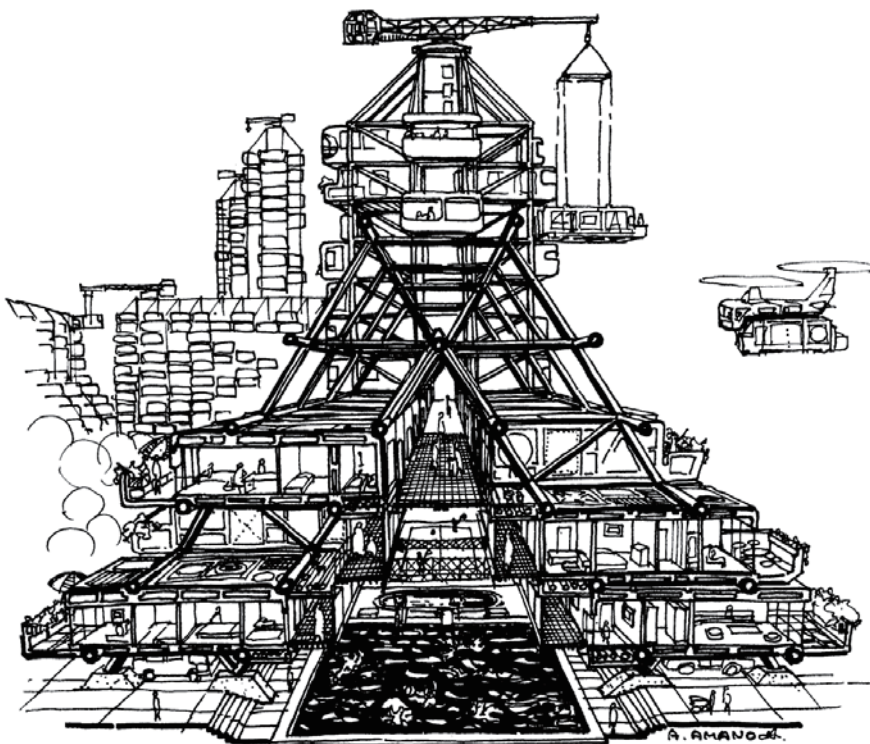
#### 認定教材の設問への回答方法

①参加者用、CPD情報システムよりIDとパスワードを入力ログインします。https://jaeic-cpd.jp ②士会用メニューより、「Web講習会/認定教材研修申請」を押します。③プルダウンメニューから申請する「認定教材」を選択します。④設問への回答を選択します。⑤入力後、「次へ」を押します。詳しくは、連合会ホームページでご確認ください。https://www.kenchikushikai.or.jp/cpd-new/cpd-index.html

現代「町家」防災中庭式セルフディフェンスハウス



湿気の傷もらない日本の「傘の家」と  
乾いた大陸の「壁の家」.



各戸自己所有の家と、フーレム権利のフレイムコロニー